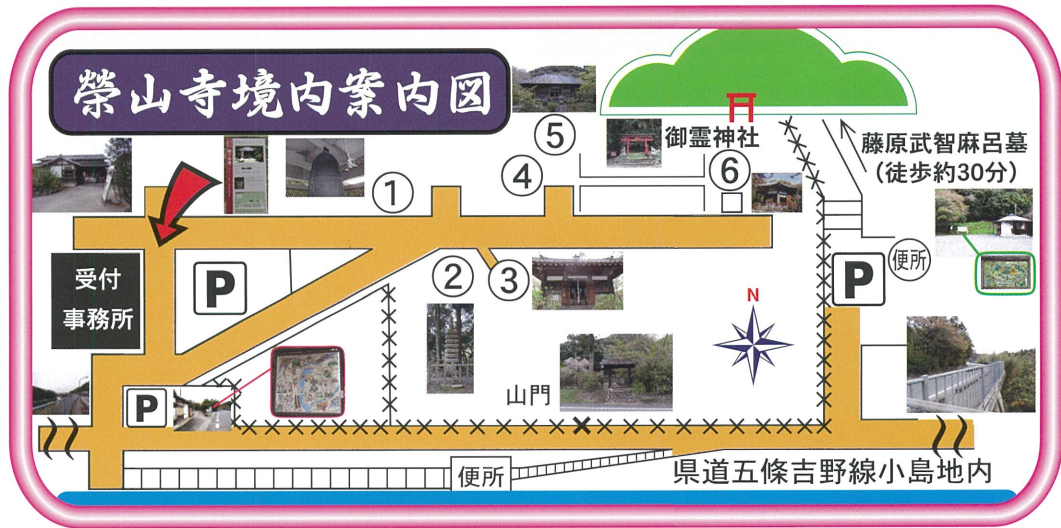




史跡指定
真言宗豊山派

学晶山 榮山寺



年間行事

4月25日 春季大祭
10月25日 秋季大祭

御本尊薬師如来御開帳

1月 1日～ 3日
4月25日～ 5月第3日曜日
10月25日～ 11月第3日曜日



榮山寺

〒637-0031 奈良県五條市小島町503

■榮山寺(史跡指定)真言宗 豊山派

寺の創建は遠く養老3年(719年)藤原南家初代武智麻呂公の開創にかかり、その菩提寺として変遷幾星霜を閲し、今にその法灯を伝える南和の名所である。吉野川の清流を膝下に静かにたたずまいをみせる。境内地にはその子、仲麻呂の孝心を伝え天平のかおりを今に伝える国宝八角円堂、書聖小野道風の名鐘をはじめ多数の文化財を蔵している。



木造十二神将(重要文化財)



八角円堂内陣柱裝飾画(重要文化財)



龍頭



梵鐘(国宝)

榮山寺の主な宝物

■八角円堂(国宝)

藤原南家仲麻呂が父母追善供養のため建立(天平宝字年間)。日本建築史上重要な位置を占める。外観は平面八角形であるが、内部の身舎(もや)は四角形。内陣周囲には、八角柱4本。四方板扉。連子窓。屋根上の宝珠は復元品で、当初のものとされる石造宝珠残欠は、塔の堂内に保存。

■八角円堂内陣裝飾画(重要文化財)

仏画。極彩色(面長2.2cm)内陣の天蓋、柱などには、今は剥落がはげしいが、時代様式をよくとどめた優れた壁画が残っている。天平時代を代表する唯一のものである。

■梵鐘(国宝)

青銅製。高さ157.4cm。口径89cm。四面に菅原道真の撰、小野道風の書と伝えられる陽鑄の銘文がある。三面に延喜17年11月3日と鑄成の銘文がある。又その、龍頭の精巧なことは本邦梵鐘中随一のもので、その均衡のとれた鐘身の美しさと相まって平安時代の金工品中、特に優秀なものと認められている。京都神護寺、宇治平等院の鐘と共に平安三絶の鐘とされている。

■薬師如来座像(重要文化財)本堂

木造漆箔、永享3年(1431年)寄木造。膝の厚みもあり、どっしりとした姿で禅定に結んだ掌に薬壺をもっている。

■木造十二神将(重要文化財)本堂

本尊薬師如来を守護する十二神将像。この内6軀が享徳3年(1454年)から翌康正元年(1455年)にかけて造立されたことがわかる(台座裏の銘記)室町期の基準作例として貴重とされている。

■石灯籠(重要文化財)本堂前

弘安7年(1284年)の銘があり、しかも各部とも当初の姿をよく残している。総高243cm。榮山寺形といわれる。

■石塔婆(重要文化財)

七重石塔婆。方形の台石の上にたち、奈良時代の建立で、我国のもっとも古い石造塔の一つである。総高360cm。石質凝石灰岩。

■史蹟榮山寺行宮跡(昭十三年)

榮山寺行宮跡というのは、南朝の後村上、長慶、後龜山三帝の行在所であったからである。